

一六 日本国及極東共和國両政府間非公式交渉關係一件

五七七

六八八

五七七 十月十六日 在瑞典國烟公使(芬蘭國兼轉)ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

長春會議ノ再開ヲレーニンハ希望シ居ル旨ノ

波蘭方面ヨリノ報道ニ付報告ノ件

第一号 (十月十七日接受)

「レーニン」ハ十月一日ヨリ執務シツツアル由ナルガ之ガ
為溫和派再ヒ勢力ヲ回復シ資本國トノ妥協性ヲ増スニ至レ

リト尚「ワルソーア」方面ヨリ伝ハル所ニ依レバ「レーニン」
ハ日本トノ関係ヲ頗ル重要視シ長春會議ニ多大ノ望ヲ囁シ
居リタルガ其不成立ニ終ルヤ「ヨッフェ」ガ病氣ノ為帰国
シ得ザルヲ幸ヒ同人ヲシテ當分長春ニ滯在セシメ機ヲ見テ
會議ヲ再開セシムルコトトシ権太問題ニ関シ相當ノ讓歩ヲ
ナシ會議ノ成功ヲ期スヘキ旨ヲ電命シタリト

事項一七 極東共和国関係雑件

五七八 二月二十日 在紐育熊崎總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日本軍ノ東支鐵道占領及西比利亞ニ於ケル日

本ノ行動ヲ非難スル米國側ノ論評報告ノ件

第四二号 (二月二十一日接受)

西比利亞問題ニ関連シ華府會議後引続キ或方面ニ於テ日米

関係ヲ疎隔セントスル計画アルモノノ如ク最近入手シタル

情報ニ依レバ「ライインシュ」ハ二月初旬紐育某重要團体ニ

書ヲ送リ日本軍ノ東支鐵道占領ハ米國ノ西比利亞通商ヲ阻

害スルモノナルヲ以テ浦潮 滿洲里間ノ鐵道管理ノ実權ヲ

「スチヴァンス」委員会ニ帰セシムルコト及子弟多政府ハ西比

利亞ニ於テ米國ニ好意ヲ有スル民主的共和國ナルニ依リ之

ヲ援助スルノ意味ヲ以テ米國ヨリ「コンミッショナー」ヲ

派遣セシムル為國務省及上院ニ運動スベキ旨右團體ニ懇意

シタル趣「ラッセル」ヨリ内報アリ又今日迄新聞記事トシ

テ現レタルモノノ内注意ヲ惹ケルハ

五七九 三月十八日 在米國幣原大使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

米国ニ於ケル極東共和国側ノ反日宣伝ニ対抗

ノ措置ニ付稟申ノ件

(三月二十日接受)

公第一二九号

大正十一年三月二十八日

(四月四日接受)

極東共和国ノ財政經濟ニ関スル同國國立銀行

總裁ノ談話報告ノ件

五八〇 三月二十八日 在中國小幡公使ヨリ 内田外務大臣宛

テ何分ノ御回訓ヲ請フ

貴電第一一七号ニ閲シ右ハ往電第一三一号ノ件ト共ニ一括取消ス事可然ト認メラルニ付テハ何分ノ儀御回示煩ハシタシ尚華府會議以来当地方ニ行ハル我對露關係ニ閲スル面白カラザル宣伝ハ所謂諸多政府代表者「スクウェイルスキ」ノ仕業ニシテ現ニ同人ハ本月初旬紐育ニ於テ反日的演説ヲナシ又十日「ブルックリン」ニ於テモ同様宣伝演説ヲ為シタルガ其ノ際ノ如キハ鮮人 E.K. Whanigi ナル者モ参加シテ反日的演説ヲ為シタル趣ナリ近來斉多側ノ宣伝ニハ鮮人モ参加シツツアリト認メラルモ一面ニ於テ斉多側ガ無稽ノ宣伝ヲナス毎ニ當方ニ於テ其ノ都度消極的取消ヲ發表スルモ其ノ効果渺カルベキ而已ナラズ我ヨリ何等具体的真相ヲ明ニセザルコトハ却ツテ世人ノ疑惑ヲ深クスルノ嫌アルニ付此ノ際寧ロ大連會議ノ經過ヲ公表シ我方公明ノ態度ヲ當國ニ見セシメ積極的ニ排日宣伝ニ对抗スルハ機宜ヲ得タルモノト存ゼラル御詮議ノ上此ノ点ニ閲シテモ合セ

客年十一月十二日附公第三七九号拙信知多政府遣米通商委員 Yagikoff の陳述書ニ閲聯シ日下当地滯在中ノ極東共和国國立銀行總裁 B.M. Berlatsky (前大藏大臣) カ「ダルタ」通信員ニ与ヘタル会见談三月二十六日北京導報ニ登載セラレタル処其内容左ノ如シ
余ハ支那人及在支外人カ極東共和国ノ財政經濟ノ実情ニ閲スル知識ノ欠乏乃至皆無ナルニ吃驚シタリ最モ責任ア

ル財界有力者ノ多数カ極東共和国ハ何時現在ノ無価値ナル紙幣ヲ金貨ニ兌換シ得ヘキ時期ニ達スルカラ質問シタルカ此ノ如キハ政府カ一九二一年五月十五日金貨ノミカ唯一ノ交換手段タルヲ規定シタル法律ヲ施行シタルノ事実ニ鑑ミ実ニ驚クヘキ質問ニ非サルカ紙幣所持者ニ損失ヲ及ボササル為政府ハ紙幣ト金貨トノ交換率ヲ一定シ紙幣ヲ以テ租税ヲ納付スルヲ許シ居レリ其ノ他極東共和国ニ於ケル一切ノ取引ハ金貨ニテ行ハレ政府自身モ官吏使用人ニ対スル支払ニ金貨ヲ使用シ居レリ又政府ハ国庫ニ対シ紙幣発行ヲ禁止シタルカ最モ著シキ現象ハ租税納付ニ紙幣使用ヲ許シ居ルニ拘ラス實際紙幣ヲ用フル者皆無ナルコトニシテ之レ紙幣ノ全ク存在セサル証拠ナリ
右ノ如ク極東共和国ハ凡テノ取引ニ正貨ノミヲ用ヒ為替相場ノ変動ニ因ル損失ノ起り得サル世界ニ稀ナル國ト為リ其ノ結果貿易ハ長足ノ進歩ヲ遂クルニ至リ本年度ニ入リ今日迄ノ登録商社ノ数ハ既ニ昨年度全体ノ登録数ヲ凌駕スルニ至リ今後益々發展ノ見込アリ本年度實際ノ取引額モ既ニ多額ニ達シ鉱山業特ニ金鉱業ハ頗著ナル成績ヲ示シタルノミナラス有力ナル露國及外國商社ニシテ共和

一七 極東共和国関係雑件 五八一 五八二

六九一

スル傍ラ更ニ共和国中遠隔ナル金産地方ニ支店ヲ開設シ
以テ金買入ニ至便ナランムヘク是等取引ハ両両相俟ッテ

一段ノ進歩ヲ促スニ至ルヘシ蓋本銀行業務ノ一ハ十分金
準備ノ保証アル紙幣ヲ發行スルニ在レハナリ余カ「チ

タ」ニ帰ル頃ニハ目下準備中ノ極東共和国銀行及露國勞

農共和国銀行間ノ協定成立シ吾人ノ銀行ヲ通シテ勞農露
国トノ取引可能トナルヘシ吾人ハ更ニ代表者通信員ヲ海

外ニ派遣スヘク此種商議ハ目下繼續中ナリ
右ハ各国ト通商開始ヲ切望スル極東共和国常套ノ宣伝ナラ
ムモ多少参考トスヘキ資料トモ存セラレ候ニ付別紙新聞切
抜添付此段報告申進候也

本信写送付先 政務部長

註 極東共和国國立銀行總裁ノ談話掲載ノ新聞切抜省略

五八一 四月二十一日 在米國佐分利臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

莫斯科及者多兩政府間ニ調印セラレタル経

條約ニ付報告ノ件

第二三五号 (四月二十三日接受)

四月二十一日莫斯科発聯合通信ハ莫斯科政府ト齊多政府ト

ゼノア、波蘭、瑞典ニ転電セリ

五八二 五月十八日 浦潮派遺軍參謀長ヨリ
參謀次長宛（電報）

極東共和国内ノ農民、労働者及軍隊内ノ反政

府的氣運ニ付報告ノ件

浦參謀三七一号 (五月十九日外務省写接受)

極東共和国一般ノ情況

窮極ニ達セル財政難ニ依リ極東共和国一般民衆ノ現政府ニ

第三五号

四月二十一日莫斯科発聯合通信ハ莫斯科政府ト齊多政府ト

ノ全力及武力的救援ナランカ

薩哈壁、閔東、北京、各特務スミ

五八三 八月十日 在浦潮永井政務部長代理ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

米国政府ハ齊多及ブラゴエシチエンスク方面

ニ対スル米国通商發展ノ可能性調査ノ件

第一四三号 (八月十日接受)

当地駐在米國商務官「マイヤー」氏ハ八月五日當地出發二

箇月間位ノ予定ヲ以テ齊多及「ブラゴエシチエンスク」方

面へ向ケ出張ノ途ニ上リタルガ其ノ使命ニ付テハ特ニ秘密

ニ附セラレ居ル模様ナリシニ付当地外国人側ヨリ密ニ探知

シタル處同氏ハ今回政府ヨリ訓令ヲ受ケ主トシテ齊多政權

及此ガ配下ニ在ル「ブラゴエ」政權ノ基礎堅実ナリヤ否ヤ

及同地方ニ於ケル鉄道運輸ノ実情等ヲ調査スル筈ニテ若シ

同政權ノ基礎鞏固ニシテ米国人ノ生活及米國ノ資本ニ対シ

相当確実ナル保障ヲ与ヘ得ル情況ナルニ於テハ米國ハ右調

査ノ結果ヲ「シアトル」桑港其ノ他米國各地ノ商業會議所

ニ附シ進ンデ齊多政權ト何等カ通商上ノ取極ヲ為シ我ガ軍

ク觀察セラル而シテ此難境ヲ救ヒ得ルモノハ独リ労農露國

撤兵後ニ於ケル米國資本ノ投下米國商人ノ活躍ニ便セント

ノ間ニ左記内容ノ經濟條約調印セラレタル旨ヲ報ゼリ

一、齊多政府ハ莫斯科政府ニ對シ極東共和国内ニ於ケル一
切ノ許与ニ対シ優先的權利ヲ附与シ且ツ其領土内ニ於ケ
ル Economic Control ヲ認ム

二、齊多政府ハ其領土内ニ存スル且ツ同政府成立ノ際全露
西亞ニ共通的性質ヲ有スル財產ニ対シ Soviet 露西亞ノ
請求權ニ反対セザルコト

三、兩國ハ第三國ト締結スペキ一切ノ条約ヲ相互ニ通告ス
ベキコト

四、其他本條約ハ相互的關稅政策ノ交渉ニ關スル規定ヲ包
含セリ

一七 極東共和国関係雑件 五八四 五八五

六九四

スルモノニシテ齊多ニハ目下領事「カーデウエル」氏及副領事「トーマス」氏駐在シ居ルニ拘ラズ特ニ「マイヤー」氏ヲ差遣シタルハ米國ガ領事ノ手ヲ経テ公然ト通商協定ヲ為スコトヲ避ケ商務官ヲ以テ密ニ此ガ任ニ当ラシメントスル下準備ナルベシトノコトナリ

五八四 九月十八日

内田外務大臣ヨリ
在長春松平代表宛（電報）

西比利亜ノ材木及鉱山等ノ利權ニ関スル齊多

政府ト米国人側トノ話合進行中ナリトノ報道

通報ノ件

第一三三号

在米代理大使來電ニ依レハ本月十一日長春発「ヘッヂス」ノ「レッヂャー」特電ハ目下長春ニ在ル齊多官憲筋ヨリノ情報トシテ西比利亜ノ材木及鉱山利權ニ関シ米国人側トノ間ニ話合進行中ナル由ラ伝ヘ右ハ未タ利權讓与ニ至ラサルモ沿海州ニ於テ金鉱区カ一英米会社ニ供与セラレタリト報シ又「グレーヴス」一族ノ関係スル「米国」シンジケート」ハ在華府齊多代表者ト二ヶ月前ヨリ利權ニ関スル話ヲ進メツツアリ齊多外務省側ノ説明ニ依レハ右齊多代表者ハ利權ノ交渉ニ関スル全權ヲ有シ居レリ又確カナル筋ノ話ニ依レ

東共和国ハ長春會議以上ニ有利ナル會議ニ入ル可キコトヲ説ケルガ近來齊多側ガ機会有ル毎ニ一再ナラズ交渉再開ニ関シ論議シツツアル所ニ鑑ミ或ハ此際齊多政府ガ又交渉再開ヲ提議セムトスルノ下心アルニ非ザルヤト思考セラル（奉天中継十月二十三日前十、○五発）

五八六 十一月三日

在ハルビン山内總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

沿海州方面時局ノ状態報告並チタ政府ト協約

關係樹立ノ為我方ノ執ルベキ措置ニ付意見稟

申ノ件

第三七六号 (十一月四日接受)

沿海州方面ノ時局ニ関シ島田ニ対スル「オザルニン」ノ言並其ノ後ニ於テ島田ノ面会セル多数ノ露国人（不明）側ノ言並新聞關係者、外國領事、支那官吏等ノ言ヲ綜合スルニ大要左ノ通

莫斯科政府部内ノ軍閥ハ其ノ後其ノ軍ガ今回沿海州ヲ速ニ占領シタル結果著シク鼻息荒クナリ此ノ機ヲ利用シ一氣ニ沿海州ヲ包含セル極東共和国ヲ廢止スルカ然ラズンバ極東共和国ハ暫時存置スルコトスルモ沿海州ヲ「アントーノ夫下準備ナルベシトノコトナリ

第五九号

（十月二十三日接受）

五八五 十月二十二日 在滿洲里田中領事代理ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

齊多軍部ノ対日態度及同政府ノ日本ト交渉再

開ノ意図ニ關シ報告ノ件

ハ齊多政府ハ何レノ國ヨリモ米國ノ西比利亜投資ヲ歓迎シ居レリト記載セル趣ナリ
尚本月十七日ノ「ジャパン、アドヴァータイザー」ニモ右ト同趣旨ノ記事ヲ掲載シ居レリ

他ノ諸外国モ同様ノ関係ニ在ルニ付何トカ適當ノ解決ヲ見ルナランモ両国関係樹立ハ焦眉ノ急務ナル處之ガ實行方法トシテ差当リ最モ適當ナルハ「アントーノフ」同様當方ヨリ相當ノ者ヲ齊多ニ派遣シ同人ヲシテ通商開始關係ニ付齊多政府ト引懸リヲ付ケシムルコトナリ但此ノ方法ハ今ヤ時代後レノ感アリ予期ノ效果アルヤ否ヤ疑ハシ依ッテ此ノ際進ンデ商務官交換問題ヲ持出シ相互主義ニ依リ臨時適當ノ外務省官吏ヲ齊多ニ特派シ然ルベキ方法ニ依リ通商問題ニ付交渉セシムルコト適當ト思考ス本件ニ関シテハ本省ニ於テ既ニ御考慮中ノコトト思考スルモ卑見開陳ス（十一月三日后三、三〇長春中繼）

（欄外註記）

之ハ勝チ軍閥ニ限ラサルヘシ

依テ日露両國ノ關係ヲ設定セントスルニハ日本ハ先ツ尼港事件ニ関スル腹ヲ定メタル上ナルヲ要ス又齊多政府トノミ關係ヲ設定スルハ無意味ナルノミナラス先方カスル條約ノ締結ニ応セラレハ一時ノ不便ハ免モ角尼港事件ニ関シ一英断ラナシ日露ノ關係ヲ一刀兩断的ニ解決スルヲ要ス

ル極東共和国政府ハ本日国民議会ニ於テ其ノ選良ヲ通シテ言ヒ表ハセル民意ニ基キ全政權ヲ議会ニ移ス旨ノ宣言ヲ朗読シ議会ハ共産党及農民派ノ提議ニ依リ極東革命委員会組織ヲ可決シ「コボゼフ」ヲ會長ニ「ヤンソン」「ボゴジン」「クビヤク」「マトウエエフ」「ウレウキイ」「ボスエイシエフ」及「コレネフ」ノ七名ヲ委員ニ選挙シ尚第十回全露「ソヴィエト」大会ノ代表者十四名ヲ選挙セリ（奉天中繼十一月十七日前十時三十五分）

五八九 十一月十七日 在ハルビン山内總領事ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

チタ国民公会ハ極東共和国ノ勞農露國ヘノ合

併ラ決議ノ件

第四一号至急

（十一月十七日接受）

「ダリタ」通信ニ依レバ齊多国民公会ハ十一月十四日ノ會議ニ於テ左ノ通り決議セリト

（）極東共和国国民公会ハ之ヲ解散ス

（）極東露領ニ於テハ「ソヴィエト」政權ヲ認ム

（）極東共和国ノ民主憲法並其ノ法律ヲ廢止ス

（）全露中央執行委員会ハ露國「ソヴィエト」會議ニ對シ極東露領「コミッテ」ニ併合シ極東露領ニ對シ「ソヴィエト」

（）極東共和国関係雜件

（）一七 極東共和国関係雜件 五八九 五九〇

五八七 十一月三日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ソヴィエト人民代表者會議力極東共和国ヲ莫斯科ノ直接権力下ニ置クコトヲ決定ノ旨英紙

報道ノ件

第五三六号

（十一月四日接受）三日「タイムズ」ハ「リガ」通信トシテ「ソヴィエト」人

民代表者會議ハ滿場一致ヲ以テ極東共和国ヲ一層直接ニ莫斯科ノ權力ノ下ニ立タシメントスル「トロツキー」氏ノ提議ヲ可決シ右共和国政府改造ノ為莫斯科ヨリ使節ヲ同地ニ派遣セル旨報道セリ

波蘭及瑞典へ転電セリ

五八八 十一月十六日 在滿洲里田中領事代理ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

極東共和国政府ハ全政權ヲ議会ニ移ス旨ヲ宣

第八〇号

（十一月十七日接受）十一月十四日齊多議会ニ於テ政府首班「マトウエエフ」ハ

昨年六月二十七日以降全政權ヲ握リ今日迄共和国ヲ統治セ

言シ議会ハ極東革命委員会組織ヲ可決ノ件

（十一月十七日接受）

十一月十四日齊多議会ニ於テ政府首班「マトウエエフ」ハ

昨年六月二十七日以降全政權ヲ握リ今日迄共和国ヲ統治セ

（）エト」憲法並其ノ法律ノ効力ヲ拡張センコトヲ希望ス

（）極東委員会ヲ組織シ之ニ全政權ヲ讓渡シ之ニ對シ極東共和国ノ到ル處ニ「ソヴィエト」政權ヲ定メ以テ勞農ト極東露領トノ統一事務ヲ実行スベキコトヲ委任ス

右ニ対シ「オザルニン」ニ確メントセルニ同人多忙ニシテ面会謝絶中ニ付不取敢電報ス

在支公使並奉天ヘ転電セリ

（長春中繼大正十一年十一月十七日后一、五五）

五九〇 十一月十八日 在ハルビン山内總領事ヨリ

内田外務大臣宛

極東共和国ノ廢止其勞農露國ヘノ合併理由二

闕スルヤンソン外相ノ演説大要訳報ノ件

在哈爾賓

外務大臣伯爵 内田 康哉殿
総領事 山内 四郎（印）

十一月十四日知多国民議会カ自發的解散ヲ宣告シタル当日

外相ヤンソンハ極東共和緩衝國ノ廢止並ニ勞農ソヴィエト

露國ニ合併ノ理由ヲ説明致居リ候ニ付御参考迄ニ茲ニ訳報

ヤンソン演説ノ大要

敬具

日本ノ巡洋艦ハ尚同港内ニ泊シ居レリ

極東共和緩衝国出現前如何ニ外国軍隊カ「ソウエート」官憲ヨリ独立シ外國政府ノ承認ヲ得吾人ハ「ソウエート」官憲ヨリ独立シ外國政府ノ承認ヲ得
ヘキ国家ノ組織ヲ決意セリ吾人ハ憲法議会ヲ召集セリ吾人ハ此議会ヲ通シ外國資本ヲ誘致シ我富源ノ利用ニ資シ得ヘシト考ヘタリ然ルニ此期待ハ裏切ラレ極東共和国出現後モ依然トシテ戰爭ハ繼續セラレ外國干涉ハ最近迄繼續セリ吾人ノ入手セル幾多ノ報道ニヨレハ北支那ニハ我領土侵撃ノタメ白衛軍ノ殘党集中シ張作霖ハ我方トノ關係ニ於テ宛然日本ノ役割ヲ演セントシツアリ我方ニ好意ヲ持テル支那國民カ何故ニ白軍ヲ援助スルヤ此レ疑モナク日本カ其勢力下ニアル支那ノ將軍連並ニ白軍ヲ通シ内政干涉ヲナシ居ルナリ而シテ内政干涉ハ尚持続セラルヘク之ヲ防禦スルノ良策ハ「ソウエート」露國トノ合同ニアリ
千九百二十年頃幾多共產黨員ハ我方カ民主的憲法政治ヲ採用スルニ於テハ民主政體タル米國ヨリ真先ニ承認セラレ得ヘシト考ヘタリ此レ大ナル誤謬ナリキ日米両國ハ利益相一致セルヲ以テ浦潮港内ニ尚内政干涉ヲ繼續シツツアリ即チ

又經濟關係ニ於テモ吾人ハ「ソウエート」露國ヨリ隔絶セル一小國ニ過キル關係上多大ノ損失アリ我民主的憲法政治ハ獨リ国外ノミナラス国内ノ陰謀ヲモ避クルコト能ハス有產階級者ハ吾人ト全然意見ヲ異ニシ國境外ヨリ劍ヲ以テ我方ニ対抗セン事ヲ予期セル將軍ト結托シ吾人ヲ眼下ニ扱ヒタリ
我等ハ勞農「ソウエート」露國ヨリ隔絶セル一小國ニ過キサリシカ故ニ帝國主義的ノ侵略者ノ蹂躪ニ任セタリ然ラハ吾人ハ何人ト提携スヘキヤ露國ナリヤ將タ日本ナリヤ其何レカラ選択スル必要アリ二者ノ中間ヲ選フ必要ナシ革命的労農「ソウエート」露國ト共ニスルカ若クハ帝國主義的有產階級者ト共ニスルカラ決定スルノ要アリ而シテ我領土ヲ完全ニ保全セントスルニハ只一勞農「ソウエート」露國ノ指導ニ待ツアルノミトス云云

事項一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件

五九一 一月七日 外務省公表

極東西比利亞ニ於ケル日本軍ノ行動、日本政 府ノ態度ニ關スル虚偽ノ宣伝ヲ反駁ノ件

公表第一号

大正十一年一月七日公表 外務當局談

帝国ハ自衛上已ムヲ得ス極東西比利亞ニ駐兵スルモノナルヲ以テ露国人ノ政争ニ対シテハ敵正中立ノ態度ヲ維持シ同地方ノ政情安定シテ速ニ撤兵シ得ルニ至ランコトヲ希望スルモノナルコトハ帝國政府ノ屢々宣明セル所ナリ然ルニ一部露西亞人ハ自己ノ党派ニ不利益ナル事態ノ發生スル毎ニ帝國ノ態度ヲ中傷非難シ甚シキニ至テハ全然虛構ノ事實ヲ捏造シテ宣伝ヲ行フモノアルハ殆ト彼等ノ心事ヲ解スルニ苦マサルヲ得サル所ナリ客年五月浦潮ニ政變起り知多政府ノ勢力同地方ヨリ一掃セラルルヤ一時日本軍ノ白党援助ヲ宣伝シ其後大連會議開催、「ツエトリン」ノ浦潮密行、日本軍ノ「マルクロフ」政權ニ対スル武器供給拒絶等ノ事實

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 五九一

ハ日本軍ノ赤党援助ノ宣伝ヲ生シタルモ此等宣伝ハ何レモ事實ニ反シ日本軍ハ終始不偏不党ノ態度ヲ厳守セリ五月政變ノ際ノ如キ日本軍ノ公正ナル態度ハ當時浦潮ニ在リシ知多政府代表者ノ文書ヲ以テ承認セル所ナリ
最近沿海州ニ於ケル白色軍ノ成功ヲ見ルヤ再ヒ日本軍ノ白党援助ノ宣伝行ハレ知多国民議會ハ世界各國政府ニ対スル檄文ヲ決議シ外相「ヤンソン」亦議會ニ於テ公然日本ノ態度ヲ中傷シタル趣ナルカ右ハ何レモ依例邪推乃至虚構ノ說ヲ吹聴シ何等為ニセムトスルモノニ外ナラサルモノナルコトハ既往ニ於ケル帝國政府及軍隊ノ態度ニ徵シ何等疑義アルヘキコトナシ左ニ右檄文記載事項中主要ナル事實相違ノ点二三ヲ例示セム
日本軍ハ尼港ヲ破壊シ黒竜江水道ヲ閉塞シタリト云フモ右ハ明白ナル虛説ニシテ其ノ実過激派軍ハ歴史上稀ナル殘虐手段ヲ以テ尼港ニ於ケル帝國臣民全部ヲ虐殺シ我救援軍ノ到着前尼市ニ火ヲ放チテ之ヲ全滅セシメ黒竜江水道ニ石船